



TITLE:

信用統制に就いて

AUTHOR(S):

松岡, 孝兒

CITATION:

松岡, 孝兒. 信用統制に就いて. 經濟論叢 1933, 37(2): 263-279

ISSUE DATE:

1933-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130340>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號二第

卷七十三第

行發日一月八年八和昭

論叢

相續稅改造の一案……………法學博士 神戸 正雄
利子の資本蓄積に及ぼす作用……………文學博士 高田 保馬
赤子の夭折統計觀……………法學博士 財部 靜治

時論

爲替戰爭と圓爲替の騰貴……………經濟學博士 谷口 吉彦

研究

簿記の目的に就いて……………經濟學士 蛭川 虎三
資本蓄積論……………經濟學士 柴田 敬
信用統制に就いて……………經濟學士 松岡 孝兒

說苑

國家の相續權……………經濟學士 三谷 道麿
所謂「賣上稅」に就いて……………經濟學士 佐伯 玄洞
百貨店と専門店……………經濟學士 堀 新一

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

（藝 轉 載）

信用統制に就いて

松岡孝兒

一 序 言

最近特に世界大戰後、國民經濟一般が著しく其の統制的要素を要求するに至れること、特にその中について金融市場に於ける統制が加速度的に其の重要性を有つに至つたことは、極めて注目すべき事實である。かくの如き國民經濟への統制要求は、正に歐羅巴各國に於いて第十八世紀以來發展し來つた自由放任に對する反動、即ち生産問題の反面たる分配問題、特にそれによつて示唆される將來社會への過程に就いての關心の結果であることは、特に説明を用ひるまでもない。かくて今日ではこの經濟に於ける統制問題は、實際及び理論の觀點より特に重要視されるに至つてゐるが、其の色彩は金融部面に於いて就中濃厚である。この點は既に私も一言せるところであるから敢えてここには贅しない。

併し注意すべきは、この間の事情は必ずしも各國間に於いて同一でないといふことである。例へば其の色彩は英米に於いて特に濃厚であるに對し、佛蘭西に於いては比較的稀薄であるといふが如きこれである。此の意味よりして私は、以下特に英米を中心とせる信用統制の問題をとりあ

げて以つてその意義を明かにしたいと思ふ。

從來經濟統制に關して重要視されるものは、生産方面に於いては合理化問題であり、流通方面に於いては管理通貨問題であると謂はれてゐる。²⁾ 今特に後者についていふならば、流通方面に於ける統制は、最近特に論議される管理通貨の觀念の發展と相伴つて著しく其の存在を強めてゐる。私がさきにのべた如く、この信用統制問題が、特に英米に於いて關心の對象となつてゐるといふのも、一面から見れば、この管理通貨的思想が、此等兩國に於いて特段に強く其の存在の根をば下してゐるためであらう。

ロオラは謂ふ。「今日世界は越え難き二の障礙に面してゐる。第一には勞働者と豊富なる物資との間に存する障礙、第二には失業者と睡眠せる工場との間に存する障礙、第三には金と之を必要とする生産との間に存する障礙これである」³⁾と。此の中第一及び第二は生産乃至分配に於ける問題であるが、第三は通貨問題である。第一第二の障礙に關する對策は姑く措くとして、最後の第三の障礙を解決すると一般に考へられてゐるものは、正にここに取扱はんとする信用統制の問題である。私はこの限りに於いて、そこに信用統制なる課題の意義を見出さんとするものである。

此の信用統制に關する機關は、必ずしも一にして足りない。併しその最も重要なものに中央銀行があることは、これまた明かなことである。⁴⁾ かかる點よりして私は、以下、とりあげられた問題をば、信用統制特に短期信用統制の視角より取扱はんとするものである。そして更に概言的

2) Bodin: *Economie dirigée, économie scientifique*, p. 115.; Teilhac, E.: *Les fondements nouveaux de l'économie*. pp. 11—13, pp. 141—196.
3) Laurat, L.: *Un système qui sombre*, 1932, p. 15.
4) Mireaux: *Le contrôle du crédit par le "Federal Reserve Board" Américain*, (Revue politique et parlementaire 1929. p. 97).

に云ふならば、まづ信用統制の標準に於いて、割引率主義より一般物價水準主義に移れる事情を明かにし、更に一般物價水準主義を吟味して中央銀行との關係を述べ、最後に信用の質的統制に論及せんとするものである。勿論一般に金融論上の問題といふ點より見て、長期信用も亦重大なる意義を有つものなることは斷るまでもない。がしかしこの問題は、行論上別の機會にゆづる。

二 割引率による信用統制

已に述べたるが如く、私は信用統制問題の發展は、其の管理通貨的思想の發展と相伴つてゐると考へるが故に、私は、以下此の問題を取扱ふ上に於いて、便宜上、之をば管理通貨的思想の發展を標準として、二つの時期に分ける。即ち大體、一は世界大戰前であり、他は世界大戰後である。そして大戰前、一般に中央銀行に於いて認められた信用の根本規準は、以下述べんとする謂はゆる割引率の原則である。

今この割引率の原則によれば、一國民經濟に於いて金の流出があれば、中央銀行はその割引率を引上げて以つて金の流出を防ぐのみならず、更には之に伴ふ金利の引上によつて外國よりの金の流入を齎らさんとするものであり、反對の場合には反對の事情を生ぜしめんとするもの即ちこれである。かくて金準備率の變動は、常に一國に於ける貨幣政策従つては信用政策の目標を決定するバロメータであつた。このことは例へば大戰後英國貨幣政策の決定上其の重要な役割を果

5) Teilhac: Les fondements nouveaux de l'économie. p. 151.

したカンリフ (Canlife) 委員會報告に於いても認められてゐる。⁶⁾ 同報告は英蘭銀行銀行部の準備と預金との比率に特段なる重要性を與へて居るが、そはこの比率の變動と割引率の變動との間に密接な關係が存在してゐるからである。例へば此の割合にして三〇パーセント以下に下ることを以つて事態の急迫を示すものであるとしてゐるが、蓋しこの比率の年平均は三五乃至四〇パーセントであることから、^{*)} この比率の三〇パーセント近くへの下落は、英蘭銀行發行部をして事態の危機を感じしめてその割引率を引上げしめるからであらう。此の意味に於いて、英蘭銀行割引率の決定は、この準備率第一主義であり、従つて又割引率の變更も主としてこの準備率の變化によつたのである。今一八九八年より一九一三年に亘る間に於いてこれを見ると、其の間に於ける變動度數は英蘭銀行に於いて七十九回⁷⁾の多きに達してゐる。之をフランス銀行の同一期間に於ける變動度數十四回⁸⁾の少きに比するときは、誠に興味ある對照といふべきである。⁹⁾

かくの如く、信用は割引率政策によつて變化するが、割引率はまた金の移動狀態に對して照應し、金の移動は更に之を基準とする信用の膨脹と緊縮とに關して密接な關係を保ち、かくの如き事情の連續的繼起、即ち金の流出に對する割引率の引上、金の流入に對する割引率の引下を通じて金本位制度を運用することは、此等事實の展開に何等の統制意思なきに拘らず、自動的に機能して恰もそれあるが如く思はしめてゐるものである。之を割引率に依る信用統制と謂ふ。

併し今日に於いては、かくの如き謂はゆる金本位制度の自動的機能は認められてゐない。今日

6) First Interim Report of the Committee on Currency and Foreign Exchanges after the War, 1924 §§ 3, 4, 6, 7, 18. 尙此の點は1920年の Brussels Conference or Report に於いても認められてゐる。Cfr. Resolutions of the Commission on Currency and Exchange of the Brussels Conference.

*) Report of the Committee on Finance and Industry, § 34.

7) Hérissou: Le contrôle du crédit à court terme par la Banque d'Angleterre, p. 13.

に於いては此の自動的機能は極めて緩慢にしか行はれず、寧ろ反對に中央銀行即ち英蘭銀行の直接且つ積極的な統制が要請されてゐると考へられてゐる。この意味に於いて、從來に於ける中央銀行政策は、極めて單純であり、素朴である。それは全く金本位制度をして自動的にその機能を遂げしめたからであり、従つてそこには何等のイニシアテイヴもなく、また謂はゆる統制もない。これ即ち信用の自由放任であり、信用の無統制でもある。そこではあらゆる部門の信用が、自動的に、無差別的に、膨脹し收縮してゐた。

三 割引率による信用統制の轉向

かくて私は更にこの大戰前に於ける中央銀行割引率中心の信用理論は、大戰後如何なる變化を惹起したかを述べなければならない。先づ第一に(A)實際問題、次に(B)理論問題について述べる。

(A) 實際問題——今姑く英國の例によるに、英國に於ける此くの如き信用理論の轉向に關して有力なる主張をなせる者は、主として英國に於ける智識階級及び「英國産業協會(British Industrial Federation)」の運動であるが、更に之にも増して有力なる存在はケインズの影響である。¹⁰⁾ 彼が金本位制度を排斥して、金本位への復歸は産業資本家の利益と矛盾する銀行資本家の利益に於いて成されたといふ主張は、英國の社會諸層に著しい緊張と凄じい反響とをよび、その結果に於いて管理通貨の思想は人々の關心の對象に現はれるに至つた。産業資本家は銀行資本家が商工業に對

8) Hérissou: op. cit. p. 13.
9) Report of the Committee on Finance and Industry, p. 17.
10) Keynes: La Réforme monétaire, pp. 23-44.

してデスポチックであること、また經濟的諸事情の展開が銀行資本家の政策に依存してゐるといふことが主張され、高金利政策、信用制限なるものが必然的に生産を制限し、英帝國の産業は金本位復歸のため大戰後行はれたデフレエション政策の犠牲に曝されるに至つたと信ぜられた。ここに於いて英國産業の回復のためにはむしろ豊富なる信用と低廉にして安定せる金利とが必要であるとし、銀行資本家に對しては専ら生産を刺激し、之を奨励するの役割が要請された。具體的に云へば一九二八年に於ける「モンド・タアナ・コンファレンス (Mond Turner Conference)」が金本位制度の自動的機能に對して不信認を示し、産業奨励のための信用擴張を説きたるが如き、また一九二八年勞働黨大會が貨幣銀行問題に對して物價安定と管理金本位制とを説きたるが如き、又更には「英國産業協會 (British Industrial Federation)」が信用自由政策を主張せるが如き皆之に屬する。¹¹⁾

之に反し、金平價復歸に執着せる銀行資本家は、極力金準備の保護を主張し、斷乎として信用インフレーションを排斥し、産業復興に有利な諸條件をも認めなかつた。

ここに於いて管理通貨論者は、かくの如き銀行資本家の齎す結果は、結局産業萎縮と失業増加とであると説いた。この攻撃は英蘭銀行がその割引率を上げた時、特に一九二九年に於いて最も猛烈となり、「スレッドニードル (Threadneedle)」街の老嬢は貪婪飽くところなく、遂にその國民の産業を中止せしめたときへ謂はれるに至つた。此等の事情は遂に同年十月の勞働黨大會に

11) Hérissou : op. cit. p. 18.

際し、スノウデン (Snowden) 藏相をして金融及び産業に關する調査委員會の設置を約束せざるを得ざるに至らしめ、謂はゆる金融産業委員會またはマクミラン McMillan 委員會と呼ばれるものここに成立し、以て「銀行、金融及び信用をば其の運用を規定する對內的及び對外的要因と相關聯して検討し、此等の諸機能をして産業及び商業の發展と勞働の雇傭とを促進すべき方法を示すべき」¹²⁾ことを求めた。結局このことは、英蘭銀行の機能が、充分英國産業の必要を満たし得なかつたことを示すものであると謂つて過言でない。

今ここではこのマクミラン委員會報告の内容には觸れない。併し同報告が極めてよく英國輿論を反映せりとする點は注目すべきものである。その結論は極めて地味ではあるが、同報告が爲替及び國內物價安定のために最も屢々ケインズの主張を容れてゐることは注目すべく、その判斷が極力明確性を隱蔽してゐることも亦、反つてその問題取扱が如何に難點を含んでゐるかを思はしめるものである。

この報告は、最近に於ける英蘭銀行政策の主張であり、その限りに於いて、英國貨幣政策に影響を及ぼしたことは明かである。一九三一年九月の英國金本位制度放棄は、この英國輿論を引繼いだものであり、そしてそれは更に管理通貨思想への關心を促進せしめつつあるものである。

(B) 理論問題——此の點についてカッセル (Cassel)、ホートンエ (Hawtrey)、ケインズ (Keynes) の三人が、如何に問題を取扱つたかは注目に値する。

12) Report of the Committee on Finance and Industry, p. 1.

先づカッセルは謂ふ。¹³⁾貨幣單位の購買力は、中央銀行がその貨幣量に與へんとする稀少性によつて決定される。中央銀行が一般物價水準の安定を確保するが如く決定する貨幣量は、本質的には割引率によつて定まる。これによつて經濟生活の進行は規則正しく行はれる。併し若し金價值が、先年來に於いて變化したるが如く變動するに於いては、金本位は著しくその目的の實現に於いて困難を感じる。元來中央銀行は、金購買力の安定手段を有つてゐる。従つて各國中央銀行はその協調によつて金價值を直接安定せしめなければならない。かくして物價安定及び爲替安定は各國中央銀行にとつて一のユニツクな目的となると。

然らばホオトレエは如何なる見地をとつてゐるか？¹⁴⁾ホオトレエも亦カッセルと同じく、中央銀行指導原則への修正を認めてゐる。彼によつて實際認められてゐる標準は、上述せる割引率並に爲替變動である。唯彼の考へによれば、此等標準の變化は迅速には行はれ難いとされてゐる。詳言すれば今一國のみが信用の膨脹を行ひ、それが急速に實現されるときは、その爲替は忽ち下落し、その所有する金分量は激減する。また他方其の金流入國が更にその流入金に對して急速に信用を膨脹せしめる時は、そはやがてその國に金の流出を惹起し、金は最初の流出國に向つて流れる。しかも此等諸國間に於ける信用膨脹は之を世界的に見る時は徐々に移動するにすぎないものであり、更に中央銀行機能による信用膨脹と、これによる謂はゆる通貨膨脹との間にも、相當の期間が存在するものである。従つて中央銀行は割引率と爲替變動とのみを標準として考察するとき

13) Cassel: Theoretische Sozialökonomie, 1923. Kap. II. Einleitung;

——: World's monetary problems, pp. 175-185.

14) Hawtrey, R. G.: Currency and credit pp. 55-56, p. 163; ——: The Gold Standard, Theory and practice, chap. IV. V.

その信用の伸縮機能は徐々には行ひ得ない。これに對し迅速且つ實質的に信用を統制するには、正にかくの如き事情を反映せしめる標準を求めなければならない。即ち一般物價水準なるものはこの點に於いて更に割引率及び爲替變動よりも適當な標準を示すものであると謂ふ。

尤もホオトレエによれば、この種の標準として、一般物價水準を以つて唯一の條件とすることはできない。¹⁵⁾蓋し、一般物價水準自體のみによつては、信用統制に於ける敏感性をば充分に示し得ないのみならず、また必ずしも、信用量の變動をも充分に示し得ないからである。此の點より論ずれば、中央銀行は此の種經濟活動のあらゆる徴候を示さなければならなくなり、その實踐は極めて困難である。むしろ中央銀行は、貨幣政策の運用によつて信用の不安定と景氣の變動とを除却すべきであると主張してゐる。これらの實際は、正に金による管理通貨を主張してゐるものであつて、此の意味に於いてホオトレエの考へは、準備率第一主義を放棄せんとするものであると謂へる。

最後に注目すべきはケインズである。その主張は、信用統制の觀點よりして以上二人の主張に比し更に徹底してゐる。彼は已に金本位を以つて古き野蠻人の遺物であると主張した點で著聞して居り、一九二四年來國內物價の安定に對して爲替の安定を犠牲にすべきことを説き、¹⁶⁾ポンドをば大戰前の物價水準に於いて安定せしめることの、餘りに英國經濟を壓迫するものなることを注意した。更にまた最近著はせる「貨幣論 (A Treatise on money)」¹⁷⁾に於いて、中央銀行の機能を述べてゐるが、彼はこれに於いて準備率惹いては金準備維持に關し、過大の犠牲を拂ふことは適當で

15) Hawtrey: Trade and credit. p. 156.

16) Keynes: La réforme monétaire, pp. 167-179.

17) Keynes: Treatise on money, Vol. II. p. 282.

ない。むしろ國民をしてその經濟的所得を獲得せしめるに如かずと主張して居り、中央銀行を以つて經濟生活の中心的活動機關であると考へてゐる。従つて中央銀行は、國民經濟に於ける生産活動をして最高度に發揮させなければならず、其の意味よりしてその活動範圍を貨幣市場に限ることは妥當でない。更にイニシアティブに金融市場に參加し以つて、その長短兩資金市場と密接な關係に立つべきことを考へなければならぬと説く。

之を要するに、カッセル、ホオトレエ、ケインズ此等三人の考へは、何れも中央銀行指導原則の全面的變更を主張してゐるものではないが、少くもその準備率中心主義の自由放任的主張に對する修正を企圖してゐる點に於いて其の軌を一にしてゐる。彼等相互の間には、よしその論點には多少の相違はあつても、彼等の意圖する實踐的結論は大體同一である。即ちそれは一方に於いては準備率乃至割引率への信仰の放棄であり、他方に於いては一般物價水準への注目これである。そしてこの新なる立場に基づく彼等の主張實現の手段に於いては、一般に信用統制による一般物價水準安定が頗る高度に要求されてゐることが容易に首肯される。

四 一般物價水準による信用統制

以上、世界大戰後の信用統制は、世界大戰前の割引率主義より轉じて一般物價水準主義へ移れることを明かにした。以下更にこの原則自體の内容を吟味しやう。蓋し廣く謂はゆる一般物價水準

なる言葉の意義については必ずしも信用統制の基準として素朴的に受入れられない點があるからである。例へば謂はゆる一般物價水準なるものを以つて、一應信用統制の標準と認めるとしても、其の信用は正に國民の生産力に順應して統制せらるべきものであるといふ見地より、果して一般物價水準なるものがかかる役割を果し得るかといふ點である。凡そ資本主義の限り、その生産政策なるものが極めて大なる重要性を有つものであることは特に注意するまでもない。然るにかくの如きものをば、一般物價水準といふが如き抽象的一般的なる單一標準によつて確保せんとすることは、極めて危険である。唯中央銀行は、國民經濟が貨幣要素に依存してゐる範圍内に於いて、適當なる政策によりその方向の決定に参加し得るといふに過ぎない。

此の理由よりして、それ自體單獨で信用統制の標準となり得るが如き指數なるものは存在してない。特に一般物價指數に於いては、生産諸條件が深くその決定に關係する外、また屢々貨幣外諸要素の参加がある。これ即ち中央銀行が有形的及び無形的なる事實の總體を考慮し、これに對して更に深められたる批判的吟味を加へなければならぬとする所以である。そしてその要素として、物價、生産、失業、資本、商業的貸付、投機等々の指數、取引界の心理狀態、金準備及び信用に關する國際的狀態、外國に對する債權債務等々が考慮されなければならぬと考へられてゐる。本來中央銀行の信用統制なるものは數學からは出て來ない。信用統制は結局に於いて機械的な問題ではない。それは常に事實に即して發展を遂げつつある信用の特定狀態に關する判斷の問題である。¹⁸⁾

18) Report of Federal Reserve Board, 1913. 此の報告は信用統制に關する極めて興味ある分析を與へて居り Credit policies に關する參考書と呼ばれてゐる。

五 中央銀行と信用統制

かくの如き意味よりしては、中央銀行は正に單なる兌換金庫ではない。中央銀行にとつては金準備の保護はもはやその唯一の問題ではない。寧ろ中央銀行は、屢々金移動に關する自動的政策と離れて政策するの必要さへ起る。かくて中央銀行政策は、既にケインズ、カッセル、ホオトレエ等が論じたるが如く、金準備をば無條件に信仰してはいけないといふことになる。中央銀行政策は、或は自由に放任さるべきであるとか、或は信用統制に對しては極めて低くしか作用し得ないとかと考へることは妥當でない。寧ろ反對に信用統制は、中央銀行の極めて重要な役割となる。即ち中央銀行は、國民經濟の生産發展に於ける正當なる段階を認識し、之に妥當する信用條件を決定し、以つて貨幣金融市場の安定を計らなければならない。

併し中央銀行は、この最高機能を果すに於いて、事情の著しい變化を希望せざる限り、金本位制度に則して機能しなければならない。從つてそは貨幣價值をば當然金價值に於いて維持すること、を企圖しなければならない。其の限り、信用統制を通ずる金本位制度への執着は、一方に於いて、金本位の管理に極めて重要な限界を示すものであると共に、他方に於いて、そは各國民經濟間の連帶性を強化せしめ、以つて各國中央銀行政策に接近點を與へ、從つては相互相調和する信用政策の遂行を可能ならしめんとするものである。

例へば今一國にしてあまりに膨脹的信用政策を行ひ、その物價が國際物價以上に騰貴するに於

いては、その金準備は次第に減少し、又もしその減少にも拘らず、依然として其の信用をば同一程度に維持するに於いては、遂に金準備のすべてを放棄せざるを得ざるに立ち至る。これに反し、中央銀行にして過度に信用を制限し、他の諸國に於ける膨脹的信用政策に對立するに於いては、その政策の遂行は、長期間に亘る金流入によつて結局中央銀行内に金を溢れしめることとなり、其の繼續を困難ならしめるに至る。

かくて中央銀行は、信用統制に關しては、一方明かにその國に特有なる政策を行ふべきであるが、併しまた他方そのイニシアティブは完全に保證されてゐるものではない。その全體に於いては、一方には、國民經濟全體より見たる貨幣政策に應ずべき者であると共に、他方には、國際的諸關係への考慮を強調する者である。私はここで問題を進展せしめ更に信用の質的統制に移るであらう。

六 信用の質的統制

信用の質的統制は信用統制上に於ける本質的要素である。勿論ここに謂はゆる信用の質的統制なるものは、信用の量的統制に對立するものであることは明かである。そして信用の量的統制が割引率を通じて間接に行はれたこと、またその割引率中心主義が一般物價水準主義に轉向しつつあることは、已に述べた通りである。然らばかくの如き關聯に於いて信用の質的統制とは何を意味するものであるか？

私を見る限り、信用の質的統制は、其の統制規準が如何なる立場からなされるかに

より、二つに分つことができると信ずる。一は部門的選擇的統制であり、二は全面的合理的統制これである。

第一の私の謂はゆる部門的選擇的統制とは、信用の標準に置かれる信用が、生産的部門に屬するや否やといふ點にある。此くの如き立場をとれるものは例へばアメリカ合衆國のそれである。一九二三年の聯邦準備委員會は、其の報告に於いて、聯邦準備銀行に關する信用は、同銀行條例に基づき、農工商關係の信用に對して向けられなければならない。聯邦準備銀行制度は、生産的信用制度であり、投資又は投機の目的に對する信用制度であつてはいけな¹⁹⁾いと云つてゐる。

本來廣義に於ける信用には、生産部門に於けるその外、投機部門並に消費部門の信用を含む。併しながら消費部門信用は今日一應は相當な役割を果してゐるが、信用全體から見ると、その地位は最も低い。その用途は一定商品の種類に限られて居り、²⁰⁾従つて消費に於ける信用統制の價值は二義的である。或は今日この恐慌を脱出するの目的に於いて、消費部門信用の大操作を企圖するものがあり、例へばケインズの如きは大いに消費を奨励すべしとさへ説いてゐるが、²¹⁾かくの如き場合、この消費部門信用の統制は極めてデリケートである。

更に部門信用は、投機に於ける短期貸付に用ひられる。例へば米國について見ると、其の取引所は屢々生産に向けらるべき資金を吸収するの外、投機に對し又特に物價騰貴を見越せる商品買占に對し、之に金融を與へるが、此等は信用統制より見てつとめて避けられなければならない。

かくの如く此等二つの統制は、信用統制の質的統制よりして極力避けられなければならないと

19) Schmitt: Kreditpolitik und Konjunkturpolitik in Theorie und Praxis, 1932, S. 150-151; Mireaux: Le contrôle du crédit par le "Federal Reserve Board" américain (Revue politique et parlementaire, avril, 1929, pp. 97-116.; Cfr. Annual Report of the Federal Reserve Board, 1923.

20) Nathan: Le financement de la consommation (Revue d'économie politique, 1929, pp. 254-268)

して、ここに最も重要な生産部門信用が残る。この生産部門信用は、正に部門的選擇的信用統制の中心であり、特に米國に於いてその主張が取扱はれたことは已に前述せる通りである。

併し信用統制は、上述せる第一段階的存在たる部門的選擇的統制に對し、更に進んで信用の第二段階に於ける全體的合理的統制を取扱はなければならない。蓋し已に述べた通り、第一段階の部門的選擇的統制は、生産、投機、消費なる經濟活動部門間の區別をなすにすぎず、その考慮も専ら一般的經濟的傾向に對して行はれるにすぎないからである。²²⁾

然るに第二段階にたつ全面的合理的統制は、かくの如き選擇を以つて満足してゐない。²³⁾其の希望するところは、信用の各產業間への合理的分配である。即ち特定產業の事情に應じて信用資金の分配を行はんとするものである。

今その理由とするところを見るに、元來、一般的指數によつて信用量を決定するといふことは、其れ自體頗る危險である。²⁴⁾蓋し此等指數は、たとひそれが物價指數であらうと、生産指數であらうと、はたまた就業指數であらうと、それは各產業の特種なる實情をある程度明示し得ざる抽象であり平均であるからである。惟ふに經濟現象に於ける同時發生は極めて不完全であり、從つてそこでは屢々現象發生に關する不一致がおこり得る。即ち一定の產業部門が不振狀態にあるときに於いて、他の產業部門の盛んなる活動が考へられる。然るに生産指數又は物價指數等は、此等の相違を明示し得ず、それへの考察は遂にある特定產業に不利益をさへ生ぜしめるに至る。かくて各種生産部門は、夫々個別的に取扱ふ必要が起る。例へば不景氣な生産部門に對しては、自由低利な

21) Keynes: A Treatise on Money, Vol. II. p. 126.

22) 尙此の點に就いては Guterman: L'organisation du crédit en Pologne, pp. 156-157 參照

23) Aftalion: Monnaie et industrie, p. 112.

24) Herzfelder: Kreditkontrolle, S. 168-201.

る信用を與へてその復興を容易ならしめ、これに反するものには反對の政策を行ふといふが如きこれであるといふ。²⁵⁾

なほまた全面的合理的信用統制に於いて、上述せる經濟的觀點と共に無視し得ざるものは、社會的見地の加味である。信用の全面的合理的統制には、常に經濟的考察のみでなく、また社會的考察をも考慮しなければならない。即ち信用は、國民經濟に有利なる企業に向けらるべく、例へば奢侈産業に向けられるが如きことは、極力避けられなければならないといふ。²⁶⁾

此の點に關し、英國労働黨は、その「労働及び國民」なる主張に於いて謂ふ。労働黨は深き憂慮に於いて、國民的信用と國民的貯蓄との割合に關する現在の問題が、少くも不利益であり、また更に不良であり、不健全であることを認めると共に、信用の異なる諸企業への分配に關する健全な方法は、質的にして且つ量的な考へによらなければならないと考へてゐる、また國民的に重要性を有つ産業に對しては、奢侈的又は娛樂的企業に先立つて適當に金融されなければならないと考へてゐると斷言してゐるが、このことはまた正に此の間の消息を裏書するものである。

七 結 言

Banking is soulless といふ英國の比喩がある。事實、銀行に關する問題は、從來屢々そこには魂の跡方も存せざるが如く取扱はれ來つた觀もないではない。併し、問題が資本主義制組織に於ける Banking である限り、それは果して許さるべきであらうか？ 凡ゆる社會科學の研究に於いて認め

25) Ansiaux; La monnaie dirigée (Revue d'économie politique, 1928, p. 1170.)

26) Labour and the Nation. (Labour Party) 1929, p. 28.

られる夫々の學問的立場は、銀行論の限り、之なくして成立し得るのであるか？、事實我々は金融、銀行に關する諸問題を取扱ふに於いて、或は多くの統計資料を、或は多くの貸借對照表を見るが、此等も果して一定の立場一定の方向なくして批判し利用し得るものであるか？、我々は此の場合此等の材料の背後にある如何なるものが、かかる統計資料、かかる貸借對照表を作成せしめるに至つたかを把握するの極めて緊要なることを信ぜざるを得ない。従つて信用の問題に於いても、それが資本主義制組織に於ける現象である限り、依然としてそこには必然的な一定の資本主義的實踐に支配された標準の發展を認めざるを得ない。

かくて我々は此等の問題の考察に於いて、信用統制に關する思想は、割引率中心主義たる量的方向から、進んで部門的選擇的統制を経、遂には全面的合理的統制なる質的方向にまで進みつつあることを認識せざるを得ないが、更に此等の事情を通じ一貫して注目しなければならないことは、何が特に金融統制の問題をここまで立入らしめたかといふことである。

尙ほ私は本稿に於いては、その取扱の便宜上、主として英米を中心としての信用統制問題を取扱つた。併しこれは決して國際的比較研究の重要性を認めないといふのではない。むしろ此の種の比較研究こそは、理論上及び實際上より云つて極めて、示唆的なものであることと認める。従つて或る國々に於いて行はれたその統制方法は、必ずしもそのまま他の國々に適用され得るとは考へないけれども、更にまたかくの如き研究を通じてこそ、始めて信用統制の全體的理解を深め得るものであることを信ぜんとするものである。